

若い感性 地域に役立てて

豊栄高

来年度から新科目設置

7/8(土) 日報



デジタル技術でデザイン

新潟市北区の豊栄高校が来年度から新しい科目「情報メディアデザイン」を設置する。本年度は先行して、現在美術を学ぶ生徒が地域からの依頼を受けてポスターや看板のデザインを手掛けている。同校では「地域活性化に若い感性が役立てば」と積極的に連携に乗り出している。

地域と連携してデジタルデータでデザインを作っている豊栄高校の生徒＝新潟市北区

ポスター、看板 連携に意欲

豊栄高校は普通科で、2年次に文理、芸術、スポーツの3コースに分かれる。芸術コース内で2018年度から、音楽や美術などの素材をデジタル技術で融合した作品作りをする「情報メディアデザイン」科目を新設し、3年次に週2時間学ぶ。美術の時間も利用してより多くメディアデザインを学ぶ機会を設ける方針だ。同校によると県内では初めての設置となる。

美術担当の片桐泰紀教諭が新設の準備を進めており、本年度は美術科目を選んだ3年生23人と2年生20人が、パソコンの扱い方を勉強しながらメディアデザインを学んでいる。

昨年冬に片桐教諭が地元で説明したところ、地域の豊栄商工会などから「高校生ならではの広告デザインを頼みたい」と1年早く依頼が舞い込んだ。

第1弾として6月に開かれた豊栄駅前の歩行者天国イベントのポスターを作

製。現在は岡方地区のまつりなど3種のポスターと、葛塚地区の定期市「葛塚市」の看板デザインを作製中だ。

看板デザインを担当する原菜月さん(18)は「看板設置に向けた会議に参加し、責任を感じて取り組んでいる。若い人たちが来なくなるデザインを考えたい」と意気込む。看板を管理する豊栄市場商組合の田辺則夫組合長(66)は「市場の顔になるので、どんなアイデアが出てくるか楽しみだ」と

期待する。片桐教諭は「近年は自分でインターネット発信ができる人材が重宝される時代。自分でデザインも描けてデジタル発信できる生徒を育てたい」と話していた。